
**2015年3月期
第1四半期決算 及び 通期業績見通し
説明資料**

帝人株式会社
2014年8月4日

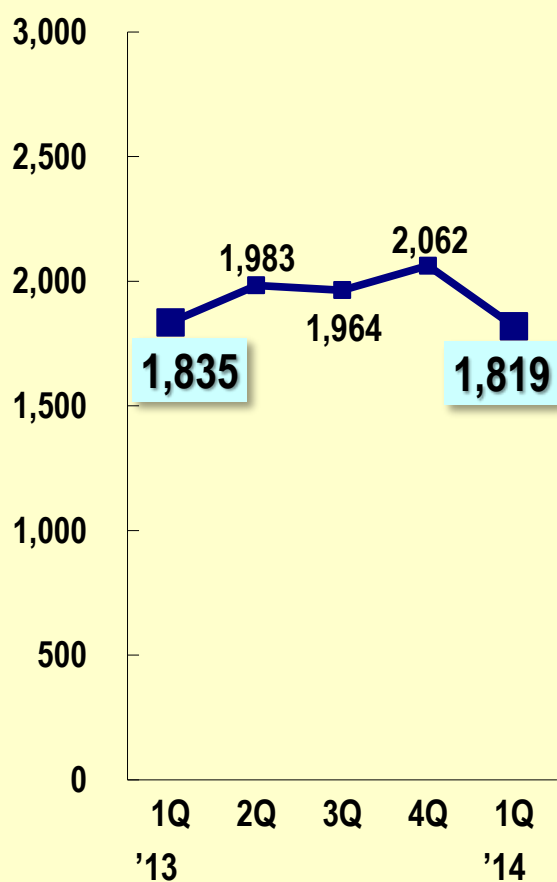
第1四半期決算概況

(1) 2015年3月期 第1四半期決算概況

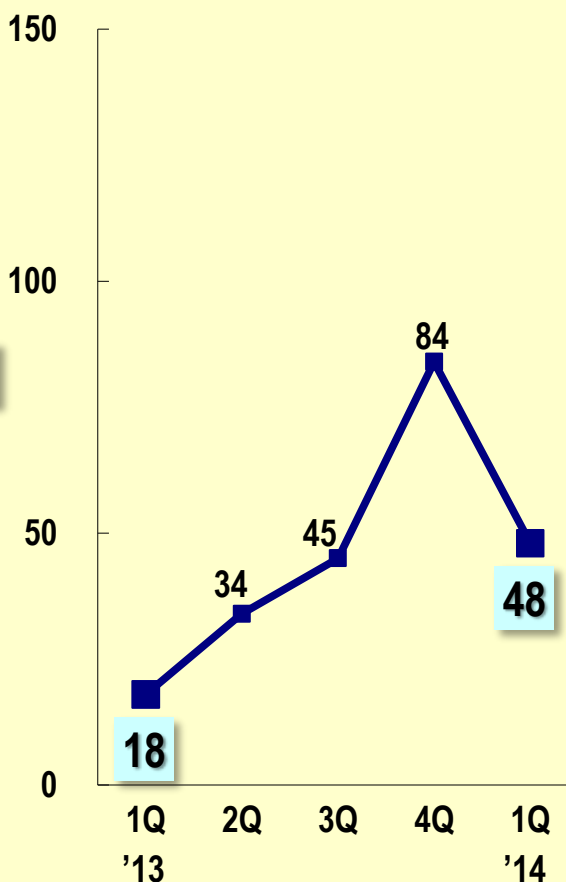
(億円)

四半期推移

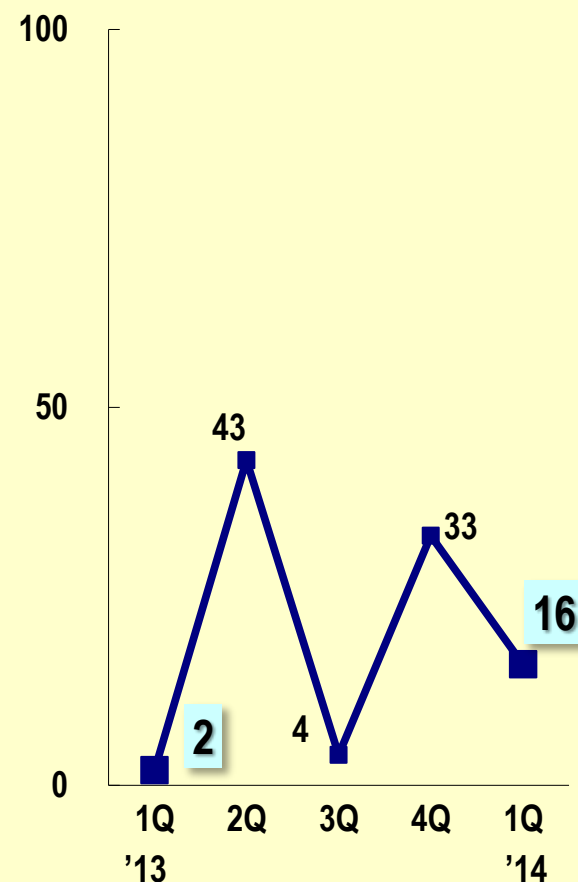
売上高



営業利益



四半期純利益



◆ 経営成績

(億円)	13年度 1Q	14年度 1Q	差異 金額
売上高	1,835	1,819	-17
営業利益	18	48	+30
<営業利益率>	1.0%	2.6%	+1.6%
営業外損益	-3	-2	+1
経常利益	16	47	+31
特別損益	-3	-8	-5
税金等調整前 当期純利益	13	39	+25
法人税等	11	24	+13
少数株主損益	0	-1	-1
四半期純利益	2	16	+14
EPS(円)	0.24	1.68	+1.44

EBITDA *1	131	159	+28
設備投資 *2	66	62	-3
減価償却費	113	111	-2
研究開発費	76	77	+0
FCF	-241	-215	+26

➤ 売上高 横ばい

- ・ 素材・ソリューション事業ともに増収
- ・ パラキシレンの自社生産・販売中止に伴い減収

➤ 営業利益～四半期純利益

- ・ 高機能繊維・複合材料、ヘルスケアを中心に増益
- ・ 構造改革とコストダウン効果発現

◇ PL換算レート

	13年度 1Q	14年度 1Q
円 / 米ドル	99	102
円 / ユーロ	129	140
米ドル / ユーロ	1.31	1.37

*1: EBITDA (営業利益+減価償却費)にて算出 *2: 設備投資には無形固定資産を含む

◆ 営業外損益

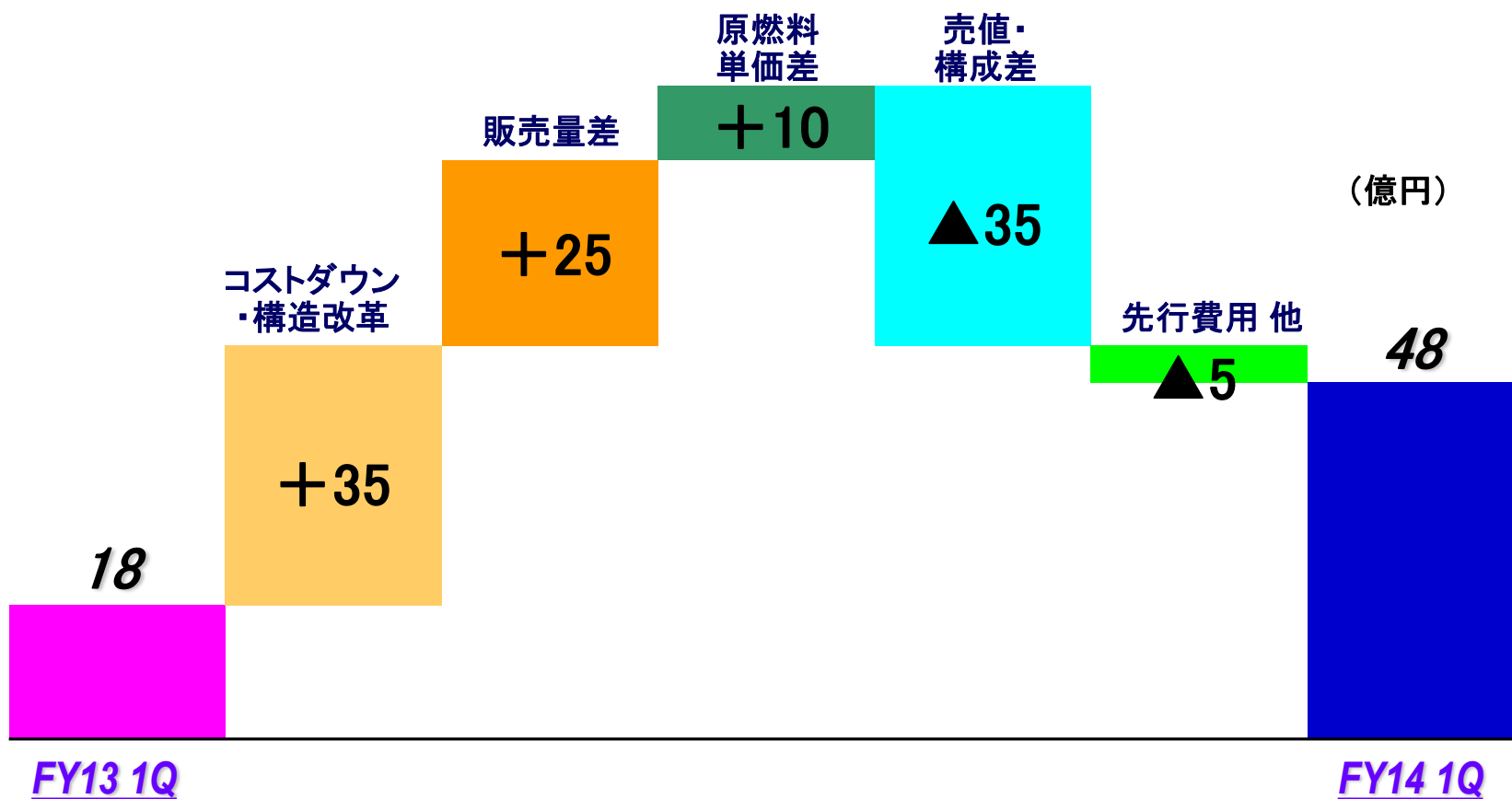
(億円)	13年度 1Q	14年度 1Q	差異 金額
受取利息	1	1	+0
受取配当金	5	7	+3
持分法による投資利益	—	4	+4
為替差益	0	—	-0
デリバティブ評価益	7	—	-7
雑収入	2	2	+0
営業外収益 計	15	15	-1
支払利息	9	7	-2
持分法による投資損失	1	—	-1
為替差損	—	0	+0
雑損失	8	9	+1
営業外費用 計	18	16	-2
営業外損益 計	-3	-2	+1

◆ 特別損益

(億円)	13年度 1Q	14年度 1Q	差異 金額
固定資産売却益	0	0	+0
投資有価証券売却益	0	0	+0
事業譲渡益	1	—	-1
その他	0	0	+0
特別利益 計	1	1	-0
固定資産除売却損	2	1	-1
減損損失	0	2	+2
事業構造改善費用	0	6	+5
その他	1	0	-1
特別損失 計	4	9	+5
特別損益 計	-3	-8	-5

◆ 営業利益増減内訳

- 構造改革・コストダウンの効果発現により、収益を底上げ
- 販売量拡大も、薬価改定や素材事業の価格圧力増大により相殺

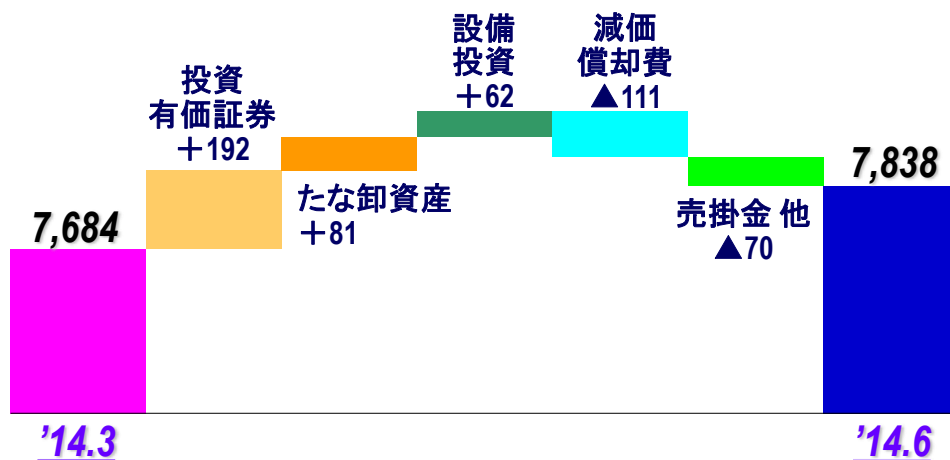


◆ 財政状態

(億円)	14年 3月末	14年 6月末	差異	内 為替 換算影響
総資産	7,684	7,838	+154	-41
自己資本	2,817	2,819	+2	-14
有利子負債	2,815	3,034	+219	-18
D/Eレシオ	1.00	1.08	+0.08	
自己資本比率	36.7%	36.0%	-0.7%	

- ・ キョーリンHD株式取得により、
総資産・有利子負債が増加

◇ 総資産増減内訳



◆ キャッシュ・フローの状況

(億円)	13年度 1Q	14年度 1Q	差異 金額
営業活動	26	48	+22
投資活動	-267	-264	+3
FCF	-241	-215	+26
財務活動他	86	218	+132
現金及び 現金同等物 増減	-155	3	+158

- * キャッシュ・フローについては金融商品取引法に基づく
四半期レビューの対象外

◇ BS換算レート

	14年 3月末	14年 6月末
円／米ドル	103	101
円／ユーロ	142	138
米ドル／ユーロ	1.38	1.36

(2) セグメント別 売上高・営業利益比較(対 前年同期)

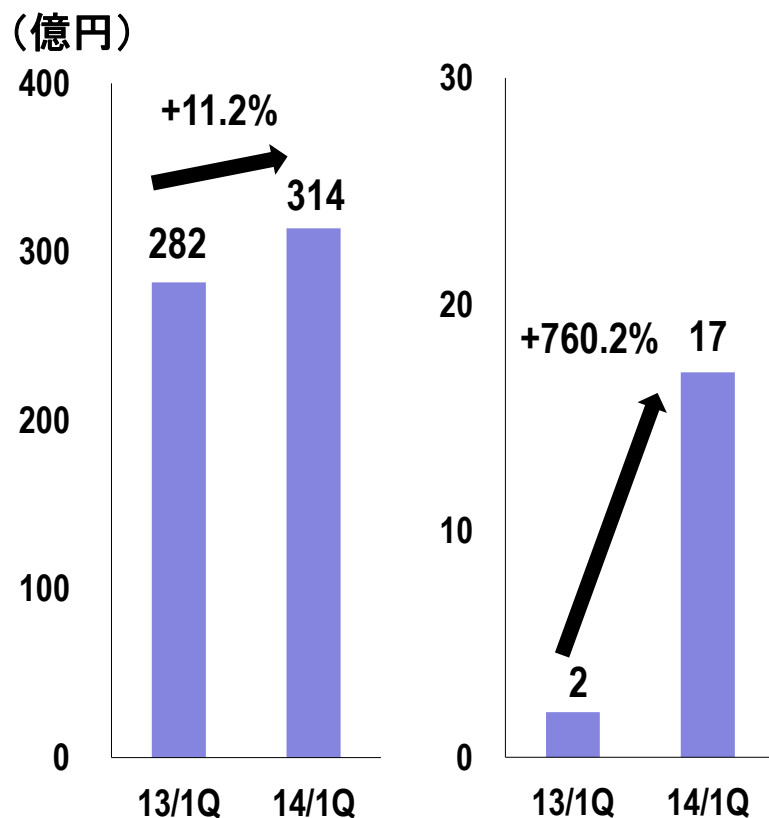
(億円)	売上高				営業利益			
	13年度 1Q	14年度 1Q	差異	増減率	13年度 1Q	14年度 1Q	差異	増減率
高機能繊維・複合材料	282	314	+32	+11.2%	2	17	+15	+760.2%
電子材料・化成品	443	462	+19	+4.3%	-2	7	+10	—
ヘルスケア	315	332	+18	+5.6%	46	57	+11	+23.0%
製品	571	575	+4	+0.8%	6	8	+2	+28.0%
計	1,611	1,684	+73	+4.5%	52	88	+36	+70.8%
その他	224	135	-89	-39.8%	-0	-7	-7	—
消去又は全社	—	—	—	—	-33	-33	+0	—
合計	1,835	1,819	-17	-0.9%	18	48	+30	+162.0%

- ・ 高機能繊維・複合材料事業を中心に、収益は大幅に改善
- ・ 「その他」はパラキシレン事業撤退により減収

①高機能繊維・複合材料事業

売上高

営業利益



(億円)	13/1Q	14/1Q	差異	増減率
売上高	282	314	+32	+11.2%
営業利益	2	17	+15	+760.2%

◆事業概況

◇高機能繊維:

パラアラミド繊維:

- ・自動車、インフラ関連用途は堅調
- ・防弾・防護用途は需要低迷継続

メタアラミド繊維:

- ・防護衣料、産業資材用途の販売は堅調
- ・フィルター用途は市場拡大も、競合激化

ポリエステル繊維:

- ・スポーツ用途向け素材、インフラ・土木用途等が堅調に推移

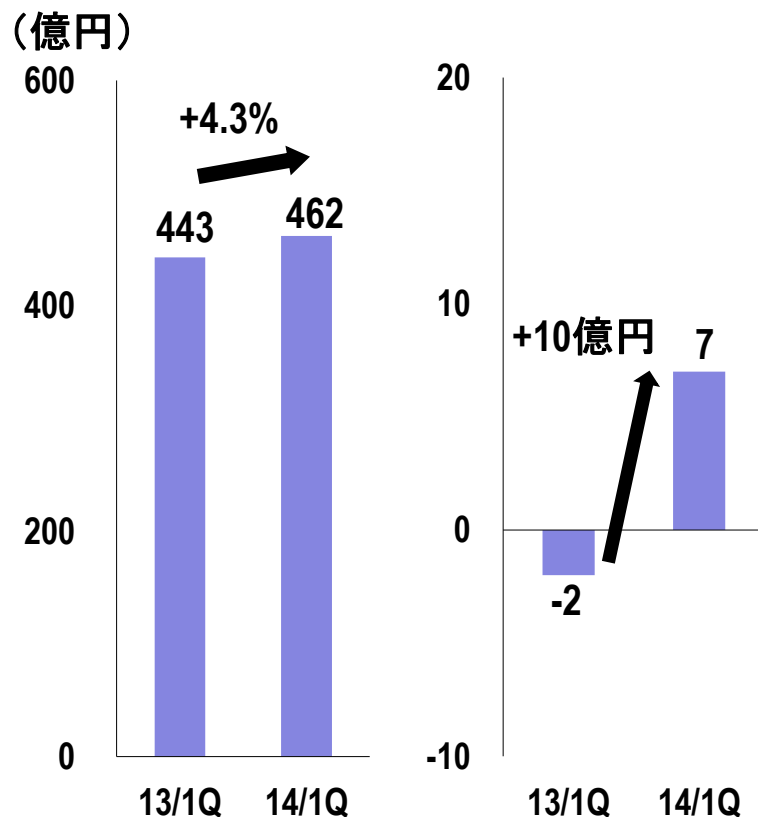
◇炭素繊維・複合材料:

- ・航空機用途は順調に推移
- ・北米での圧力容器用途も需要堅調
- ・アジア向け土木補強用途の販売好調

②電子材料・化成品事業

売上高

営業利益



(億円)	13/1Q	14/1Q	差異	増減率
売上高	443	462	+19	+4.3%
営業利益	-2	7	+10	-

◆事業概況

◇樹脂:

PC樹脂:

- ・コストダウン効果により収益復調
- ・需給は引き続き軟調・販売面では総じて苦戦
- ・LED照明等 電気・電子部品分野は堅調

樹脂加工品・特殊PC:

- ・逆波長分散フィルム、スマートフォン向けカメラレンズ用途の販売拡大

◇フィルム:

PET国内:

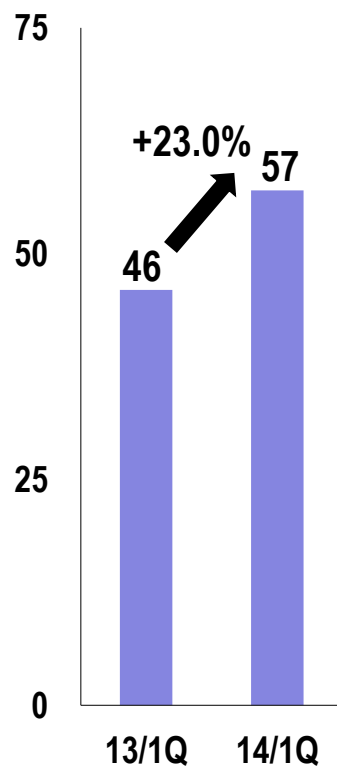
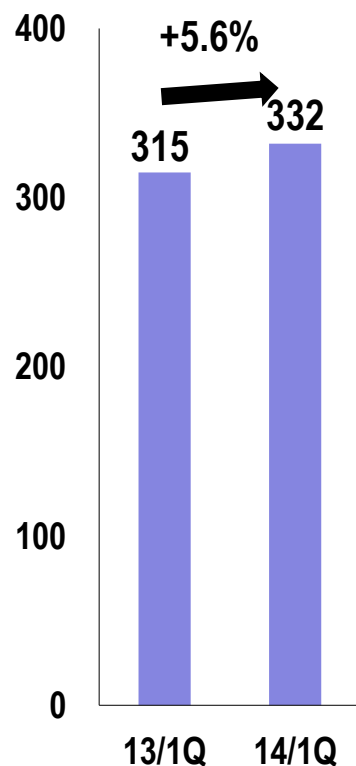
- ・スマートフォン・タブレット向け等の工程用離型フィルム堅調
- ・液晶TV向けは需要回復も、価格面では低調
- ・茨城事業所休止による固定費削減効果発現

③ヘルスケア事業

売上高

営業利益

(億円)



(億円)	13/1Q	14/1Q	差異	増減率
売上高	315	332	+18	+5.6%
営業利益	46	57	+11	+23.0%

◆事業概況

◇医薬品:

- 薬価改定、診療報酬改定で後発品市場は拡大
- 高尿酸血症・痛風治療剤「フェブキソスタット」国内トップのシェアを更に拡大
海外でも37ヶ国で販売、順調に拡大中
- 骨粗鬆症治療剤「ボナロン*」
点滴静注/ゼリータイプは着実に販売を拡大中

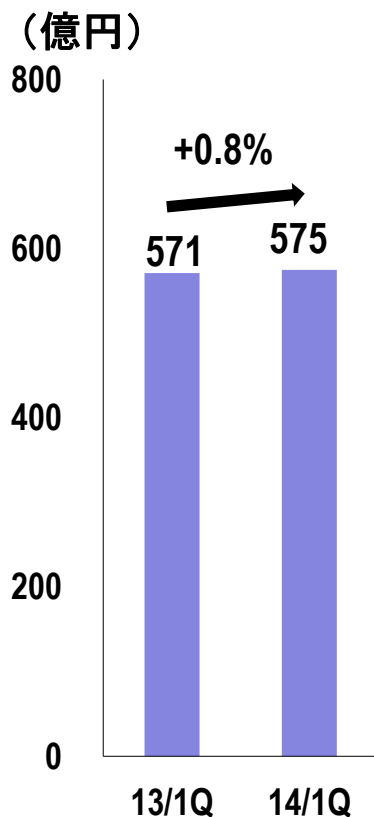
◇在宅医療:

- HOT: レンタル台数を維持、新機種を上市
- CPAP: レンタル台数は着実に伸長
- 米国では厳しい事業環境が継続
営業所の統廃合・人員削減等の収益改善を推進

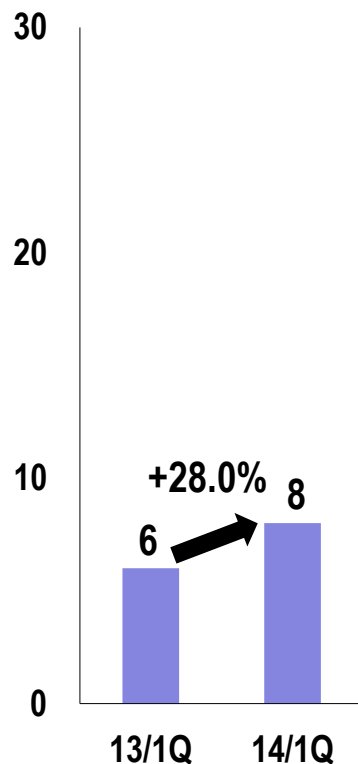
* ボナロン®/Bonalon® はMerck Sharp & Dohme Corp.の登録商標です。

④製品事業

売上高



営業利益



(億円)	13/1Q	14/1Q	差異	増減率
売上高	571	575	+4	+0.8%
営業利益	6	8	+2	+28.0%

◆事業概況

繊維素材:

- ・ スポーツ用途が総じて堅調、欧米向け婦人アパレルも好調継続
- ・ ユニフォーム用途の出足鈍い
- ・ 衣料製品は天候不順により夏物荷動きが低調

産業資材:

- ・ 自動車関連用途は好調を維持
- ・ テント関連、不織布、土木関連、バグフィルター用織物の出荷も堅調
- ・ タイにタイヤコード生産の合併会社新設(6月)アジア地域での自動車向けゴム資材の販売拡大に注力

(3) 主要アクション(2014年4～6月)

【重点戦略事業の強化】

- キョーリンとの戦略的提携関係構築に向けた体制整備
株式追加取得(6月)、役員派遣(6月)
- タイヤコード生産拠点をタイに設立(6月)
綾羽(株)との合弁で、自動車向け川中事業の新たなサプライチェーンを構築



【ビジネスモデル変革】

- 帝人(中国)商品開発センターの開設(4月)
中国国内で原糸から最終製品までの研究開発に対応、
アジアの顧客ニーズへの迅速な対応が可能に
- エアバス社 A350XWBへの採用(5月)
炭素繊維強化熱可塑性樹脂積層板が搭載



【融合領域の開拓】

- 外科手術用シート状接着剤の開発推進(6月)
医薬品技術×素材技術
世界初の遺伝子組み換えフィブリン糊接着剤
取り扱いが容易、生体に吸収され、高い止血効果



2015年3月期 通期業績見通し

(1) 通期業績見通しの概況

前回見通し(5月9日公表)と変更なし

(億円)	13年度実績	14年度見通し	差異	
			金額	%
売上高	7,844	7,800	-44	-0.6%
営業利益	181	250	+69	+38.3%
<営業利益率>	2.3%	3.2%	-	+0.9%
経常利益	199	225	+26	+13.1%
当期純利益	84	100	+16	+19.7%

2013年度実績及び2014年度配当予想

(円/株)	13年度実績	14年度見通し	差異
中間配当	2.0	2.0	-
期末配当	2.0	2.0	-
年間配当	4.0	4.0	-

EBITDA *1	637	700	+63
設備投資*2	302	370	+68
減価償却費	457	450	-7
研究開発費	322	340	+18
FCF	-87	-100	-13

(億円)	14年3月末	15年3月末	差異
総資産	7,684	8,000	+316
有利子負債	2,815	2,900	+85

*1: EBITDA (営業利益+減価償却費)にて算出

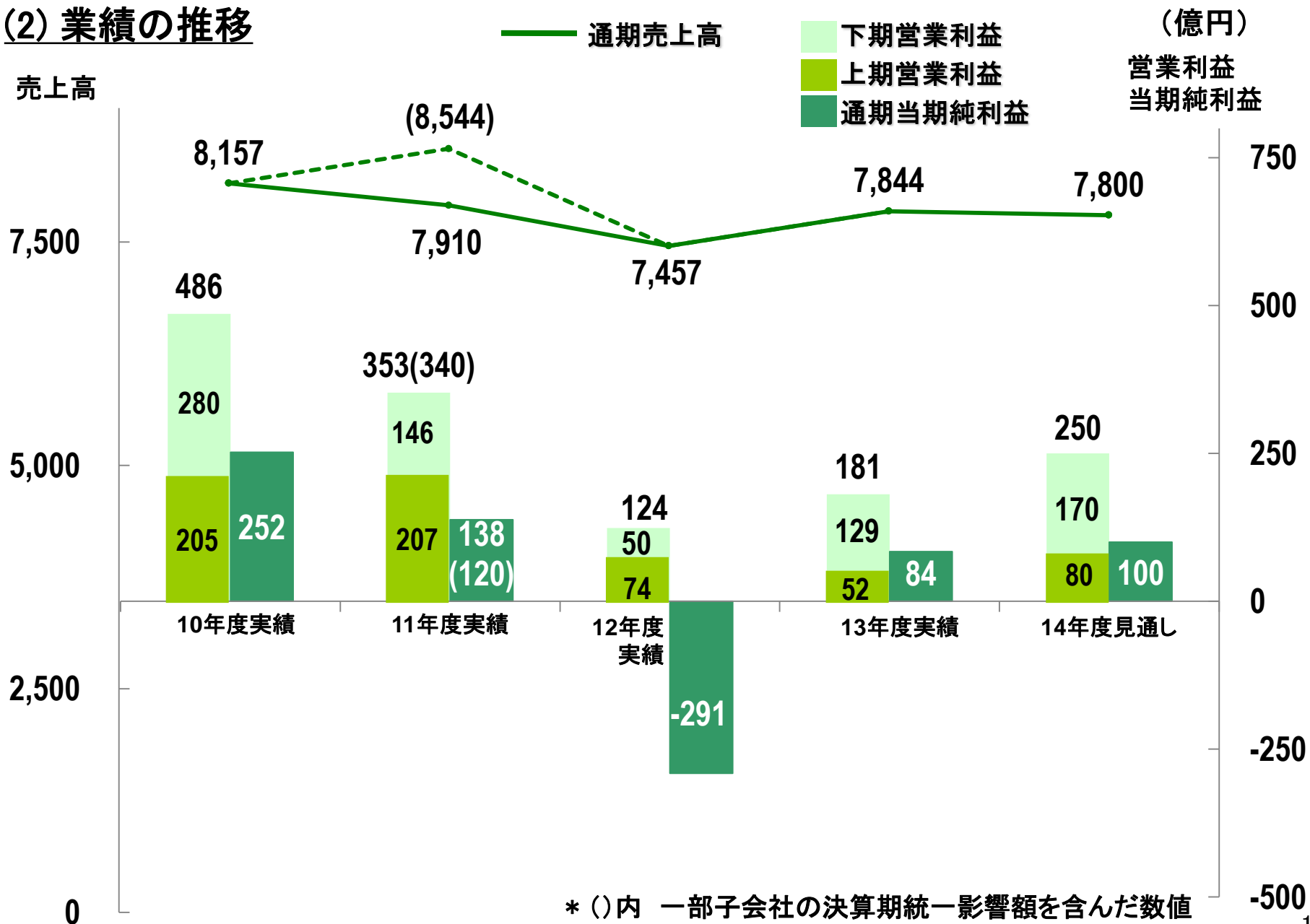
*2: 設備投資には無形固定資産を含む

■ 2014年度見通し前提

通期為替レート 米ドル = 102円
ユーロ = 140円

原油価格(Dubai) = 105米ドル/バレル

(2) 業績の推移



◆セグメント別 売上高・営業利益推移(前年実績対比)

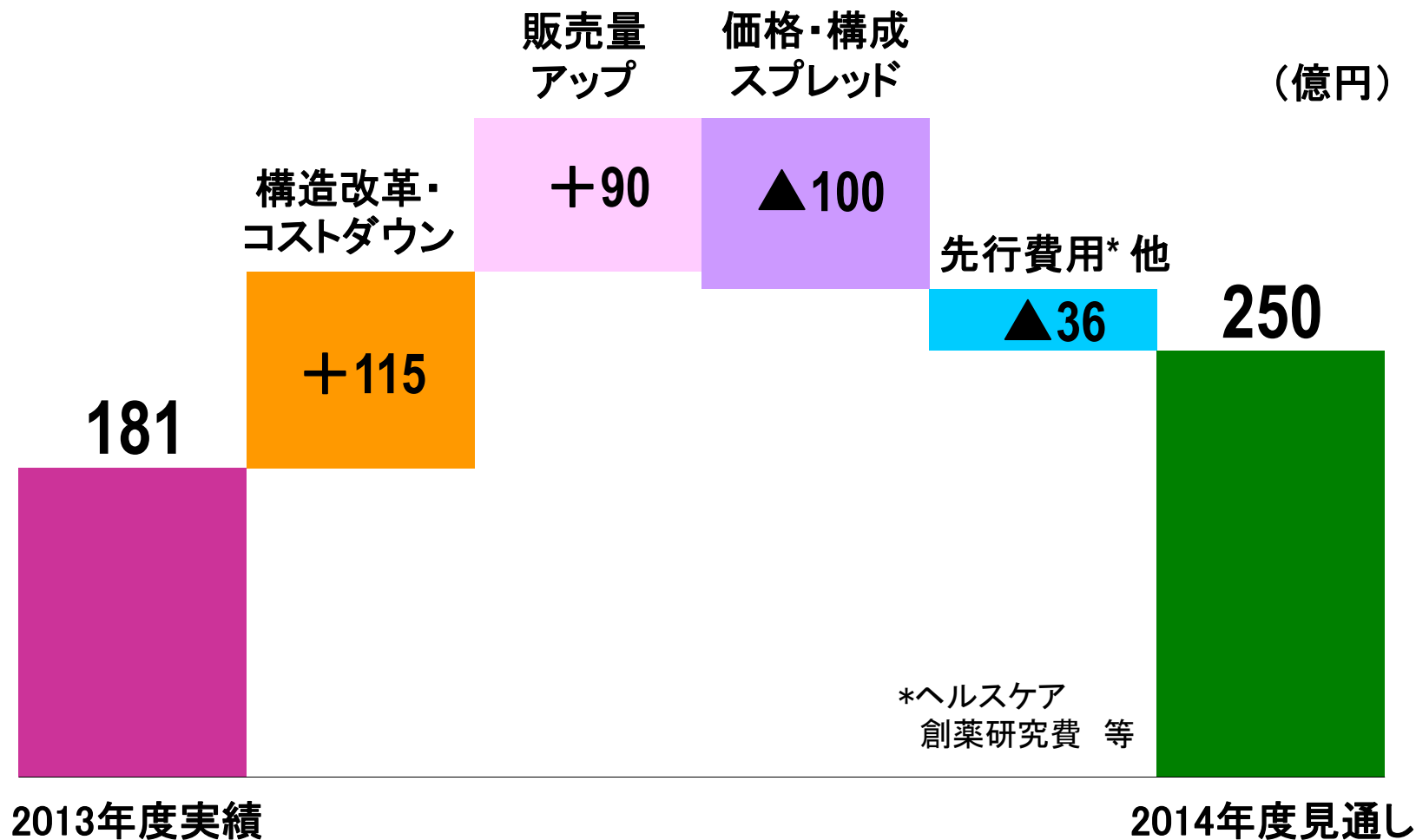
(億円)		13年度実績			14年度見通し			年間 差異
		上期	下期	年間	上期	下期	年間	
売上高	高機能繊維・複合材料	584	652	1,236	650	650	1,300	+64
	電子材料・化成品	913	881	1,794	900	900	1,800	+6
	ヘルスケア	648	736	1,384	650	750	1,400	+16
	製品	1,209	1,333	2,542	1,250	1,400	2,650	+108
	計	3,355	3,601	6,956	3,450	3,700	7,150	+194
	その他	463	425	888	300	350	650	-238
	合計	3,818	4,026	7,844	3,750	4,050	7,800	-44
営業利益	高機能繊維・複合材料	24	34	57	30	35	65	+8
	電子材料・化成品	-27	-45	-72	-20	-10	-30	+42
	ヘルスケア	94	152	245	110	140	250	+5
	製品	23	28	52	20	35	55	+3
	計	114	168	282	140	200	340	+58
	その他	-3	21	17	0	30	30	+13
	消去又は全社	-59	-60	-119	-60	-60	-120	-1
合計	52	129	181	80	170	250	+69	

(3) 主要事業の環境認識

事業		動向
複合材料 高機能繊維・	アラミド繊維	<p>【市場】安定成長続くが、価格圧力も引き続き強い</p> <ul style="list-style-type: none"> 自動車関連用途、インフラ関連用途の需要好調 防弾用途、米・欧の需要低迷が継続
	炭素繊維 ・複合材料	<p>【市場】主力用途の需要堅調</p> <ul style="list-style-type: none"> 航空機用途堅調、北米の圧力容器向け需要活況 価格は海外勢を中心とした販売攻勢による軟化の懸念
化成品 電子材料・	PC樹脂	<p>【市場】軟調な需給バランスが継続、足下ではBPA原料高騰</p> <ul style="list-style-type: none"> スプレッドは引き続き低位 スマホ・タブレット向けの加工品、機能樹脂(レンズ)は好調
	PETフィルム	<p>【市場】アジア・新興国メーカー台頭による競争激化</p> <ul style="list-style-type: none"> 液晶TV向けはやや回復の兆しも、価格下落が進行 スマホ・タブレット向けには、工程用離型フィルム好調
ヘルスケア	医薬品	<p>【市場】診療報酬改定による後発品の市場シェア拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> 高尿酸血症・痛風治療剤：グローバルで成長トレンド維持 骨粗鬆症治療剤：競合激化による厳しい環境継続
	在宅医療	<p>【市場】日・米で対照的な医療政策</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内：医療・介護ビジネスへの政策的後押し 米国：医療費抑制に向けた政策的圧力継続

(4) 2014年度営業利益見通し増減内訳

前回見通し(5月9日公表)から変更なし



(5) 主要経営指標

	10年度 実績	11年度 実績	12年度 実績	13年度 実績	14年度 見通し
ROA：営業利益／総資産	6.1%	4.5%	1.6%	2.4%	3.2%
ROE：当期利益／自己資本*1	9.1%	4.2%	-10.3%	3.0%	3.6%
売上高営業利益率	6.0%	4.0%	1.7%	2.3%	3.2%
D/Eレシオ*2	0.94	0.89	1.00	1.00	1.0
自己資本比率	37.3%	38.3%	35.6%	36.7%	35%
1株当たり当期純利益(円)	25.6	12.2	-29.6	8.5	10.2
1株当たり配当金(円)	5.0	6.0	4.0	4.0	4.0
総資産(億円)	7,615	7,621	7,624	7,684	8,000
有利子負債(億円)	2,674	2,610	2,708	2,815	2,900
EBITDA(億円)*3	1,050	863	592	637	700

*1 「当期純利益÷自己資本」にて算出

*2 「有利子負債÷自己資本」にて算出

*3 「営業利益+減価償却費」にて算出

見直しに関する注意事項と事業等のリスク

見直しに関するご注意

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

事業等のリスク

業績等に影響を与える可能性のある重要な要因には、以下の事項があります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

① 競合・市況変動にかかもの

帝人グループは市況製品を展開しており、景気動向、他社との競合に伴う市場価格の変動、購入原燃料の価格変動、また為替、金利といった相場の変動により事業業績が大きく左右されることがあります。

② 製品の品質にかかもの

ヘルスケア事業においては、生命関連商品を取り扱っているため、製品の欠陥により、業績、財務状況、社会的評価等に悪影響を及ぼす可能性があります。

③ 医薬品の研究開発にかかもの

医療用医薬品の開発には、多額の費用と長い期間がかかるうえ、創薬研究において、有用な化合物を発見できる可能性は決して高くありません。また、種々の要因により承認申請を断念しなければならない可能性があります。また、承認申請した後でも承認が取り消されることがあります。

④ 海外活動にかかもの

海外での活動について為替変動に係るリスクのほか、予期しない法律・規制の施行、不利な影響を及ぼす租税制度の変更、経済変動、政変・テロ・戦争等による社会的混乱により、経営成績及び財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

⑤ 事故・災害にかかもの

大規模な自然災害や不慮の事故等により生産設備が損害を受けた場合や原材料の供給等サプライチェーンに大きな障害が生じた場合は、帝人グループの経営成績及び財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

本資料は、2014年8月4日午前11時30分に公表した弊社決算発表に基づくものです。
本資料に記載された製品名等は登録商標です。

◆ 連結貸借対照表

(億円)	12年 9月末	12年 12月末	13年 3月末	13年 6月末	13年 9月末	13年 12月末	14年 3月末	14年 6月末
資産 合計	7,318	7,800	7,624	7,838	7,668	7,910	7,684	7,838
流動資産	3,507	3,734	3,723	3,725	3,662	3,856	3,649	3,676
固定資産	3,810	4,066	3,901	4,114	4,006	4,054	4,035	4,162
負債・純資産 合計	7,318	7,800	7,624	7,838	7,668	7,910	7,684	7,838
負債	4,330	4,654	4,703	4,889	4,713	4,893	4,683	4,838
(内 有利子負債)	2,523	2,749	2,708	2,877	2,923	2,969	2,815	3,034
純資産	2,988	3,145	2,921	2,949	2,955	3,017	3,001	3,000

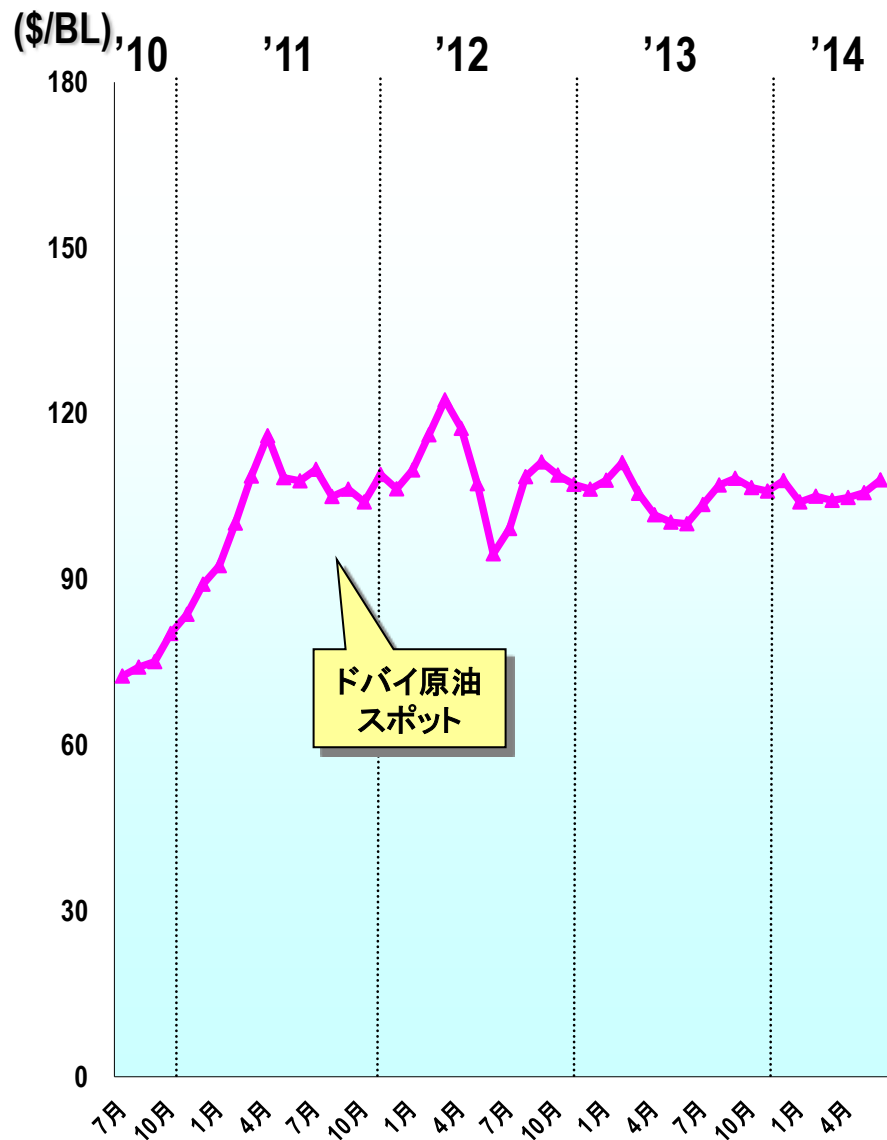
* 詳細については決算短信をご覧ください

◆ 連結損益計算書

(億円)	13年度				14年度	13年1Q 14年1Q 比較
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	
売上高	1,835	1,983	1,964	2,062	1,819	-17
売上原価	1,379	1,513	1,482	1,527	1,339	-40
売上総利益	456	470	483	535	480	+23
販管費	438	436	438	451	431	-6
営業利益	18	34	45	84	48	+30
営業外損益	-3	-8	41	-12	-2	+1
（内 金融収支）	-3	-7	-4	-5	1	+4
（内 持分法投資損益）	-1	4	34	5	4	+5
経常利益	16	25	86	72	47	+31
特別損益	-3	53	-66	-38	-8	-5
税前利益	13	78	20	34	39	+25
法人税等	11	39	31	-1	24	+13
少数株主損益	0	-4	-16	2	-1	-1
四半期純利益	2	43	4	33	16	+14

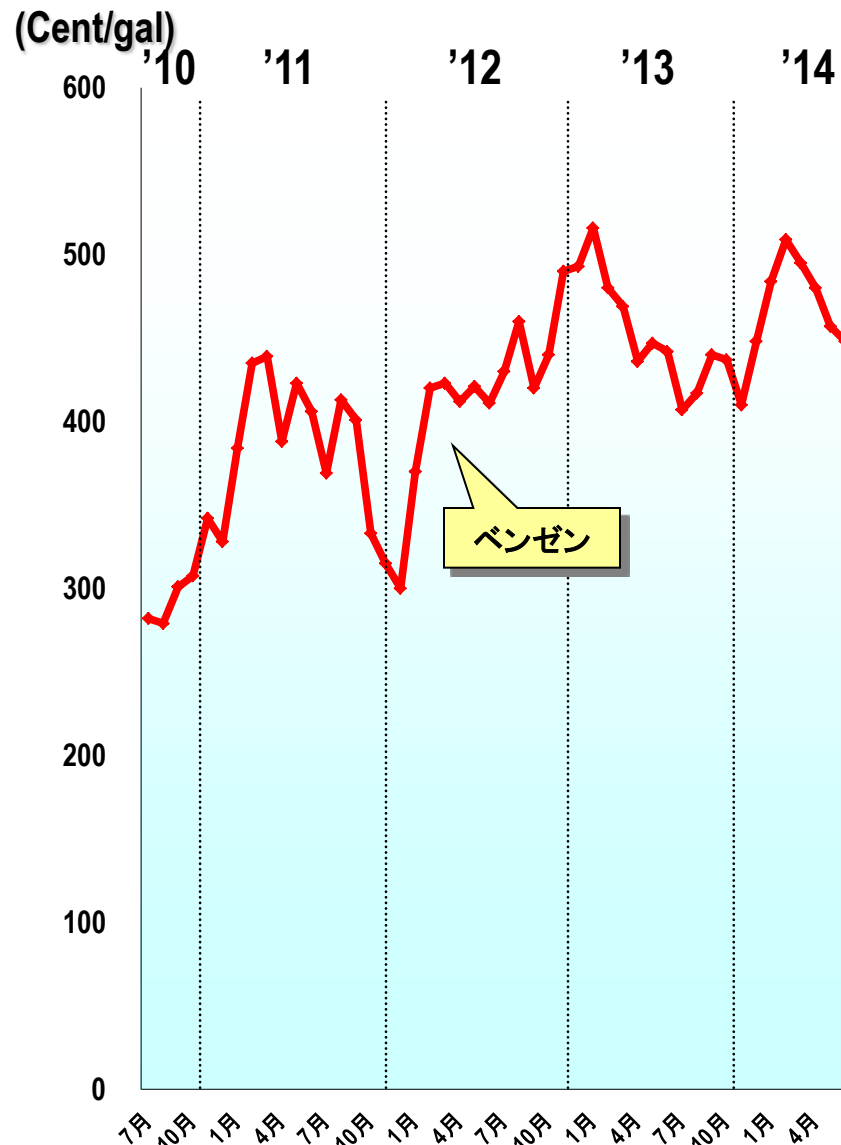
* 詳細については決算短信をご覧ください

◆ ドバイ原油価格推移



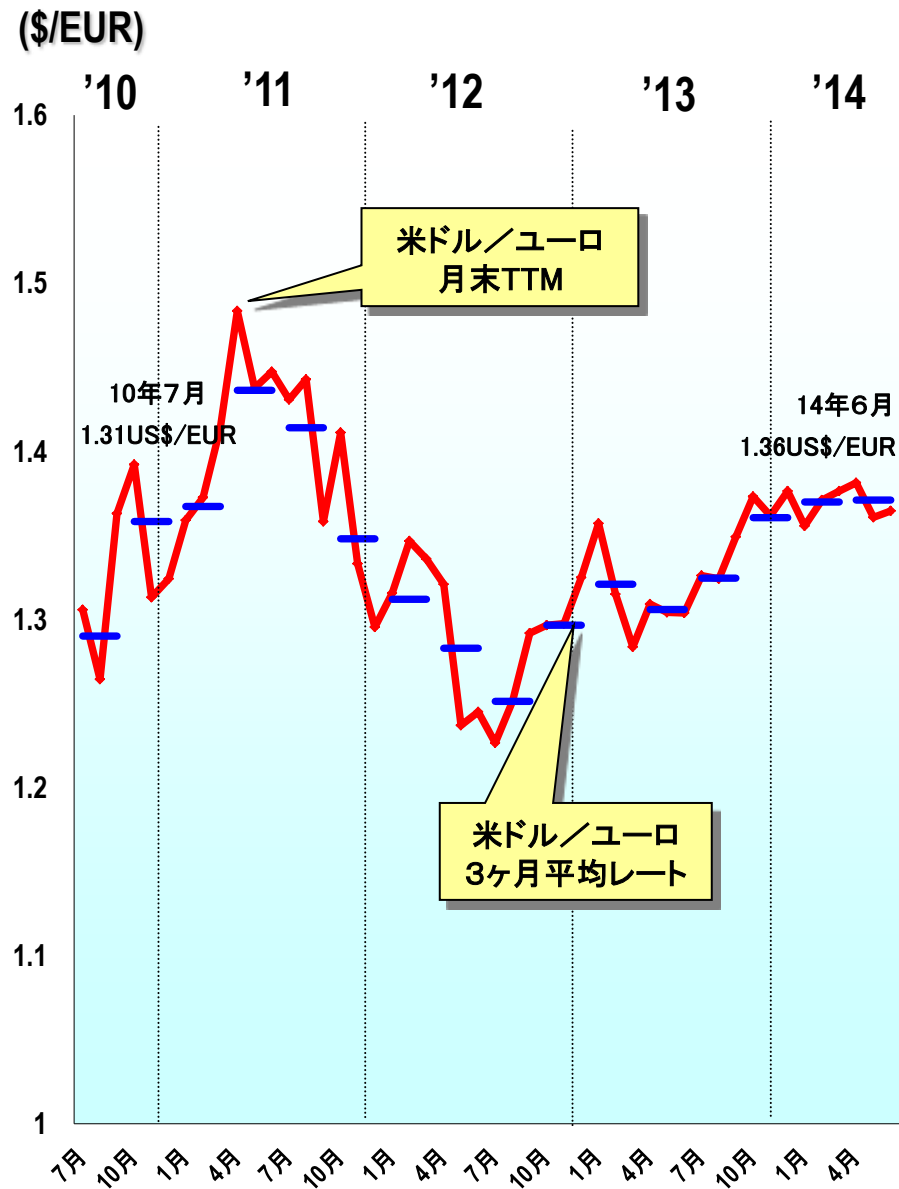
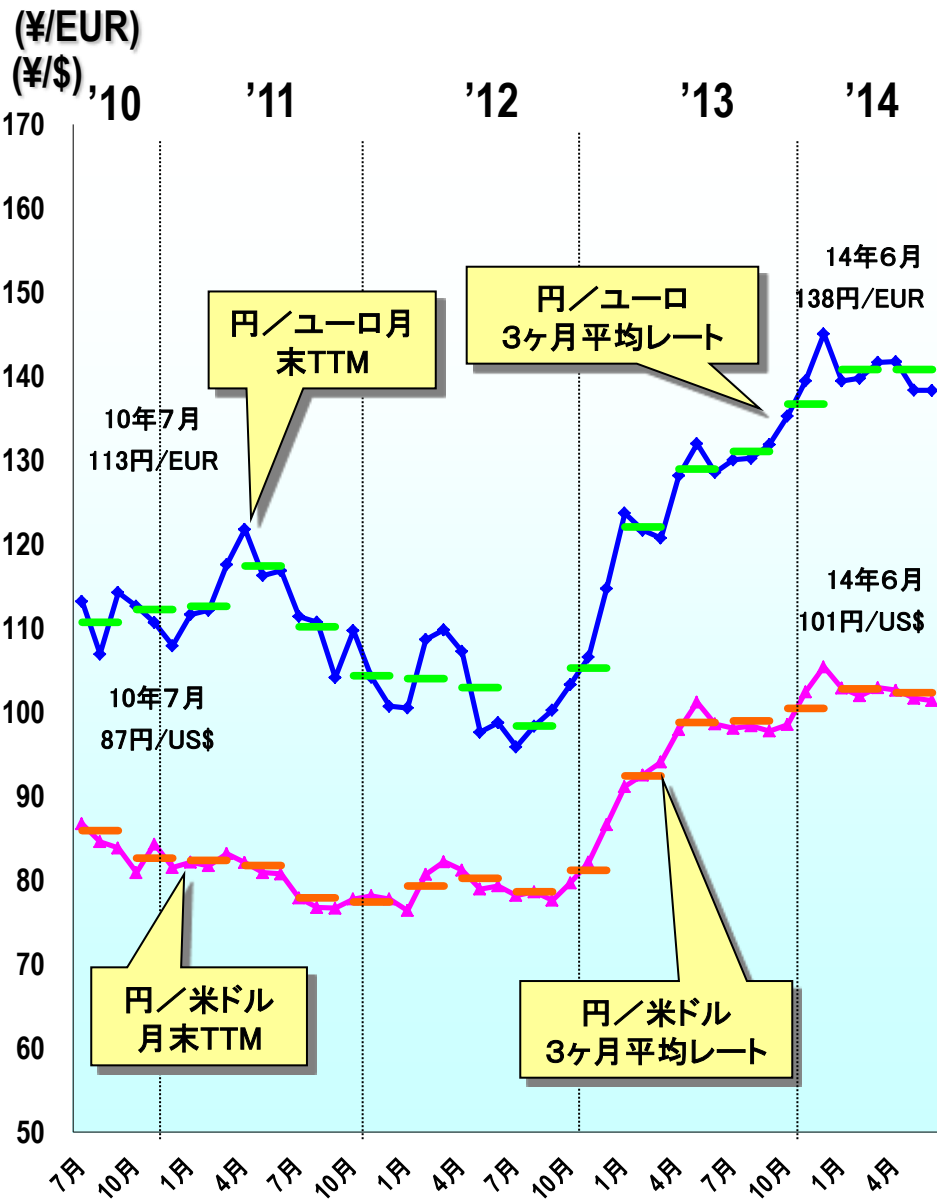
【出所:Platt's社のDATAを基に弊社推定】

◆ ベンゼン価格推移



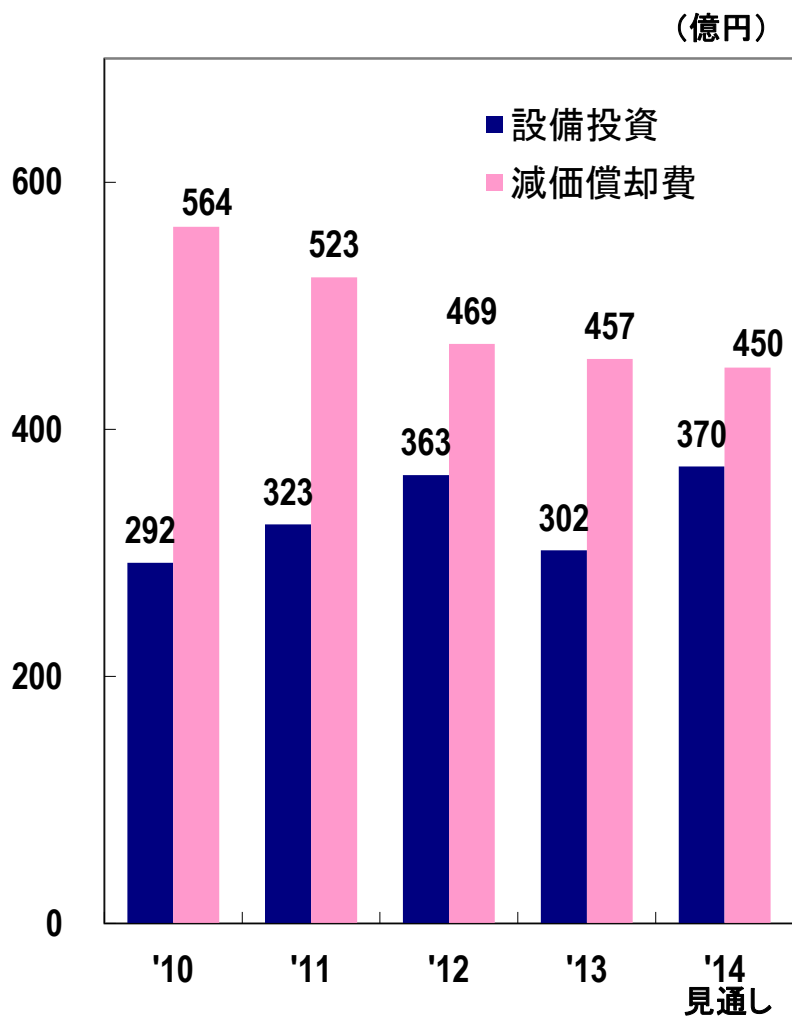
【出所:BZ DewittのDATAを基に弊社推定】

◆ 円／米ドル、円／ユーロ為替レート推移

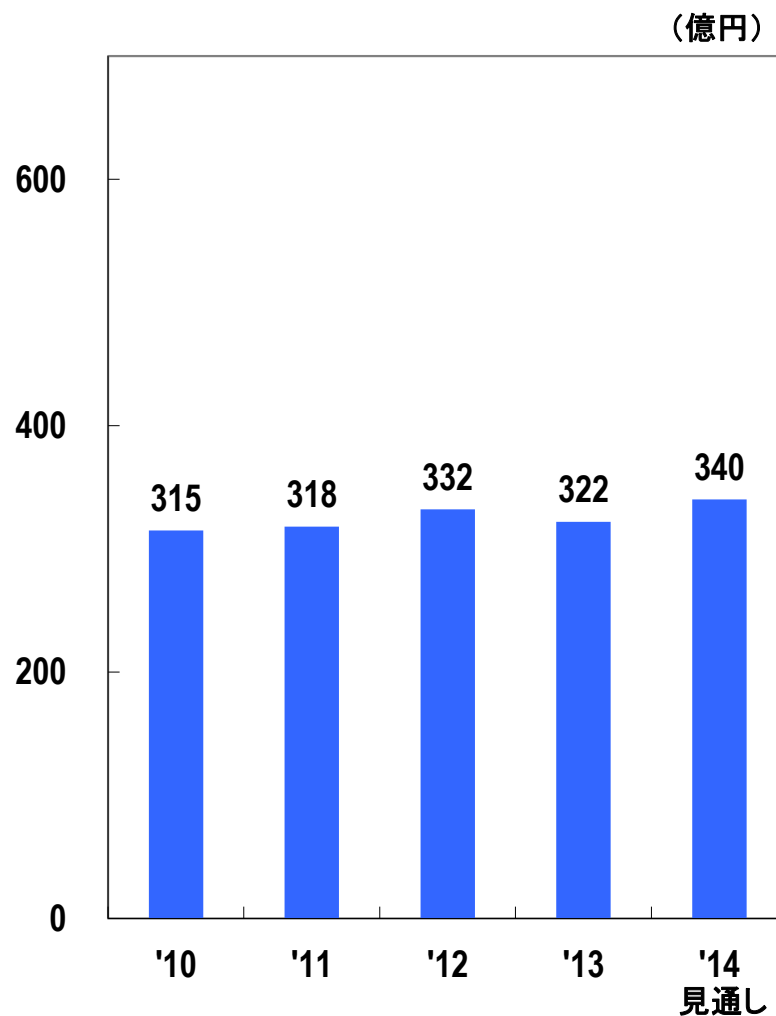


◆設備投資・減価償却費・研究開発費推移

設備投資・減価償却費



研究開発費



◆ 主要医薬品売上高実績推移

(億円)

品名	薬効	13年度					14年度
		1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q
ボナロン [®] *	骨粗鬆症治療剤	32	37	41	32	142	31
ワンアルファ [®]	骨粗鬆症治療剤	15	17	19	14	66	14
骨粗鬆症治療剤 計		47	54	60	47	208	45
フェブリク [®]	高尿酸血症・痛風治療剤	19	25	34	37	114	28
ベニロン [®]	重症感染症治療剤	22	23	29	20	94	25
ムコソルバン [®]	去痰剤	17	18	24	19	79	16
ラキシベロン [®]	緩下剤	8	9	10	8	36	8
トライコア [®]	高脂血症治療剤	4	4	5	4	17	4
ボンアルファ [®]	角化症治療剤	3	3	3	3	13	3
オルベスコ [®]	喘息治療剤	3	3	4	3	13	3
ソマチュリン [®] *	先端巨大症・ 下垂体性巨人症治療剤	1	1	2	2	6	2

* ボナロン[®]/Bonalon[®] はMerck Sharp & Dohme Corp.の登録商標です。* ソマチュリン[®]/Somatuline[®] は Ipsen Pharma, Paris, France の登録商標です。

◆ 疾患分野別臨床開発段階 (2014年6月末現在)

* 承認/新規上市は直近1年間を記載

	臨床開発段階			
	Phase I	Phase II	Phase III	申請
骨・関節 領域		ITM-058 KTP-001		
呼吸器 領域	PTR-36			NA872ET [ムコソルバン]
代謝・ 循環器領域	TMG-123	ITM-014N [ソマチユリン®] (適応追加:神経内分泌腫瘍) TMX-67XR* [フェブリク]	TMX-67TLS [フェブリク] (適応追加:腫瘍崩壊症候群) TMX-67 [フェブキソスタット] (中国)	
その他			GGs-ON, -MPA, -CIDP [ベニロン] (適応追加①:視神経炎<ON>) (適応追加②:顕微鏡的多発血管炎<MPA>) (適応追加③:慢性炎症性脱髄性多発根神経炎<CIDP>)	

* フェブリクの徐放剤(新剤形・新用量)として2014年6月にTMX-67XRの臨床開発に着手。

◆ 前臨床・臨床準備段階の導入状況(直近3年間を記載)

導入契約	導入元	内容
2014年5月	英シグマタウ社	ADA欠損症治療薬EZN-2279の日本における独占的開発・販売契約を締結

◆ 新規開発医薬品 (2014年6月末現在)

【承認申請】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
NA872ET (アムブロキソール塩酸塩)	去痰	既に販売している去痰剤アムブロキソール塩酸塩(ムコソルバン)の小型徐放錠。 ムコソルバンLカプセルより小さいため、服薬しやすく、分包性に優れることが期待される。	徐放錠	導入:独ベーリンガー ・インゲルハイム社 2014年2月承認申請

【Phase III】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
GG5-ON (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	視神経炎	本剤の免疫調節作用により、視神経の炎症を抑制し、視機能を改善することが期待される。	注射	共同開発:化血研 (適応追加)
GG5-MPA (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	顕微鏡的多発血管炎	本剤の抗炎症作用と免疫調節作用により、自己免疫性血管炎を鎮静化させ、標準治療で残存する神経障害(多発性単神経炎)を改善することが期待される。	注射	共同開発:化血研 (適応追加)
GG5-CIDP (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	慢性炎症性脱髄性多発根神経炎	本剤の免疫調節作用により、末梢神経の炎症を抑制し、低下した筋力を改善することが期待される。	注射	共同開発:化血研 (適応追加)
TMX-67TLS (フェブキソスタット)	腫瘍崩壊症候群	本剤の強力な尿酸生成抑制作用により、1日1回の投与で、悪性腫瘍に対する化学療法に伴う高尿酸血症の発症を抑制することが期待される。	錠剤	自社開発品 (適応追加)
TMX-67 (フェブキソスタット)	高尿酸血症・痛風	国内販売しているフェブリク錠を中国に導出する。本剤は、強力な尿酸生成抑制効果に加え、腎機能低下等により既存治療薬を使うことのできなかつた患者へも使用が可能であり、中国における高尿酸血症・痛風治療の新たな選択肢として、高尿酸血症・痛風患者のQOL(Quality of Life)向上に貢献できることが期待される。	錠剤	共同開発: アステラス中国 (中国)

【Phase II】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
ITM-014N (ランレオチド酢酸塩)	神経内分泌腫瘍	ソマトスタチン受容体を介したアポトーシスの誘導(直接的作用)や細胞栄養因子の分泌制御(間接的作用)を介した作用により、神経内分泌腫瘍の進展抑制や諸症状の改善が期待される。	注射	導入: 仏イプセン社
ITM-058	骨粗鬆症	強力な骨形成作用により短期間で骨密度増加と骨折抑制効果が期待できる骨粗鬆症治療薬。既存薬に比べ、強い骨密度増加作用と高い安全性(高カルシウム血症のリスク低減)が期待できる。	注射	導入: 仏イプセン社 (適応追加)
KTP-001	腰椎椎間板ヘルニア	腰椎椎間板ヘルニアに対する化学的髄核融解療法剤。 生体内でヘルニアの自然退縮に関わる酵素(マトリックスメタロプロテアーゼ)と同じ構造のヒト型タンパク質であることからアレルギー反応のリスクが少なく、選択的に作用するため、椎間板周囲組織の傷害性が低いと期待される。手術に代わる低侵襲性の治療法の選択肢を広げることができる。	注射	発明者: 波呂浩孝氏、 小森博達氏 共同開発: 化血研
TMX-67XR (フェブキソスタット)	高尿酸血症・痛風	既に販売している高尿酸血症・痛風治療剤フェブキソスタット(フェブリック)の徐放剤。	経口	自社開発品

【Phase I】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
TMG-123	2型糖尿病	新規作用機序(肝優位型GK活性化作用)による血糖コントロール薬。 血糖コントロールが不十分な患者で有効性が期待されるほか、高い利便性(1日1回投与、腎機能低下患者で用量調節の必要性低い、薬物相互作用の懸念が少ない等)が期待される。	錠剤	
PTR-36	気管支喘息	新規作用機序(CRTh2拮抗作用)によって喘息症状をコントロールする長期管理薬。 単剤による吸入ステロイドと同等の治療効果(軽症患者)や吸入ステロイドとの併用による十分な治療効果(軽症~重症の患者)が期待される。	錠剤	導入:英プルマジェン・セラピューティクス(アズマ)リミテッド社

TEIJIN

Human Chemistry, Human Solutions

Human Chemistry, Human Solutions

テイジンブランドの約束を“Human Chemistry, Human Solutions”と表現します。

この約束は、「人と地球環境に配慮した化学技術の向上と、社会と顧客が期待している解決策を提供することで本当の価値を実現することに挑戦し続けること」を意味しています。

私たちはこの約束を確実に成し遂げ、企業理念であるQuality of Lifeの向上に努め、社会と顧客から信頼される企業グループであり続けます。